

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100206		
法人名	社会福祉法人 ゆうなの会		
事業所名	グループホームぬくぬくの家・幸		
所在地	沖縄県那覇市首里大名町1丁目43-2		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	平成31年 2月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ijvsvocd=4770100206-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ijvsvocd=4770100206-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成30年11月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流会が多々あり、地域のご協力を頂く事も多い。「地域ふれあい交流会」「夏祭り」「地域音楽祭」など利用者也喜んで参加され、ご家族も一緒に参加される事もある。特に事業所主催の「ふれあいバザー」は地域児童40名、他60名程の方がバザーに訪れ恒例のイベントとなっている。ご家族、親戚、知人の訪問があり気軽に話ができる環境ができています。毎日面会に訪れるご家族もいる。大学や専門学校の学生の実習受け入れもあり、利用者との関わりを通して学生が将来の夢をかたる場面も見られる。元職員のボランティアの協力もあり利用者とも馴染みの関係も維持している。敷地内にデイサービス、老人ホーム、大名居宅、大名包括支援センターも併設されている事から入所前には職員の訪問も多い。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、敷地内に法人が運営する特別養護老人ホームやデイサービス、地域包括支援センターなどが併設され、地域福祉の拠点となっている。行事や地域との交流会等は法人全体で参加することが多い。毎月開催される「ふれあい交流会」や年1回実施の「大名夏祭り」、今年から始まった「大名音楽祭」等に利用者も参加し地域住民と交流したり、「ふれあいバザー」で事業所手作りのクッキーを販売している。家族会があり、5月に「父・母の日会」として開催し、家族と利用者が一緒に食事をしながら歓談する機会を設けている。本人の思いや要望に寄り添い、白板を準備して筆談で対応したり、よく使う会話の言葉をパネル式に使用している。施設にいる息子に会いたいとの要望に応え、毎月の面会を介護計画に位置付け、施設職員との協力でサプライズ訪問を実施している。職員のチームワークが良く、話しやすく、働きやすい職場環境をめざしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識できる場所に掲示している。スタッフ勉強会やミーティングでは、理念を唱和し、理念に基づいて支援ができるように努めている。	理念は創立当初からのもので、理念の一つ「常に相手を尊敬しあえる関係づくりをめざす」で、利用者の気持ちに寄り添った支援を心がけている。理念の「専門的知識、技術の向上に努める」では、職員は介護の専門家としての自覚を持ち支援するよう努めている。利用者のニーズを把握し、花の好きな人に正月の花を生けてもらうようその人の能力を活かした支援や「投票に行きたい」という利用者の期日前投票への支援につなげている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や月一回開催される「地域ふれあい交流会」には毎月参加して地域との交流を図っている。地域児童との交流も積極的に行い、お互いに行き来して交流を図っている。「ふれあいバザー」「大名音楽祭」「地域児童クラブ訪問」等地域の一員として積極的に関わりを持つように心がけている。	毎月のウクレレ演奏やフラダンスを通して、ポイント制を活用したボランティアと交流している。法人全体で地域行事に参加している。「地域ふれあい交流会」は毎月開催され、地域住民と定期的に交流している。「大名まつり」や「ふれあいバザー」も実施され、バザーでは手作りのクッキーを販売している。今年から「大名音楽祭」が大名小学校で開催され、利用者も見学している。夏休みは、地域児童と切り絵やシーサーの作品作りで交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症があっても地域の一員として生活ができる事を交流を通して発信している。「認知症カフェ」「オレンジカフェin首里りうぼう」にも参加して、グループホームでの取り組みなどお伝えしている。また、「世界アルツハイマー月間」の取り組みとして南風原ジャスコでのチラシ配布等も行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、ご家族、職員、那覇市職員、包括支援センター、グループホーム管理者、地域住民、法人所長、局長、協力医療機関代表が参加し、年6回定期的に開催している。運営状況や活動報告、事故報告、研修報告、身体拘束等について報告している。また、意見など出して頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年6回開催し、利用者や家族、市担当職員、包括支援センター職員等が参加し、委嘱状も交付されている。議事録は丁寧を作成され、事故や外部評価についても運営推進会議で報告し、外部評価結果は公表されている。8月から知見者として、他のグループホーム管理者が参加している。今年地域代表の委員が他界し、その後空席となっている。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、那覇市グループホーム連絡会へ参加し、日頃困っている事や疑問に思っている事など情報交換や相談等しながら協力体制を築いている。介護保険法改正の説明会等への参加をしている。	介護保険の認定更新等で市の担当窓口を訪問し、利用者について情報交換をしたり、市からは制度改正や研修等の連絡や案内を受けている。運営推進会議や那覇市グループホーム連絡会で、毎回市の担当職員や地域包括支援センター職員が参加しているので、困難事例等の相談や連絡を密にし、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止検討会」を3カ月に1回開催して、運営推進会議でも取り上げている。日頃行っているケアが拘束になっていないか勉強会でも話し合いを持っている。	身体拘束等適正化のための指針を作成し、身体拘束廃止検討会を設置、3カ月に1回開催している。転倒防止のため、夜間帯のみモーションセンサーを設置している利用者が4人いる。身体拘束にあたらぬか、検討会で協議し、運営推進会議にも報告を行っている。スタッフ勉強会で、「身体拘束」や「介護虐待について」学習し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアしている時の言葉使いや態度が不適正でないか研修会や勉強会を通して学んでいる。ミーティングでの話し合いや法人全体の「職務会」での勉強会にも参加して、虐待を見過ごさない様取り組んでいる。	「身体拘束廃止・高齢者虐待防止マニュアル」を整備し、ミーティングや勉強会で話し合う機会を持ち、情報共有に努めている。法人全体の接遇研修にも参加している。スタンダードアクションブックを作り、虐待が見過ごされることがないように職員の表情や言葉づかい、立ち居振る舞い等についてまとめられ、全職員が携帯し、勉強会やミーティングで唱和している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度について事業所内で勉強会を行い、必要に応じて説明ができるように資料も準備している。現在1名の入居者様が成年後見人制度を利用されている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の祭、利用者やご家族に契約書や重要事項説明書を用いてサービス内容等を説明している。説明の中で不安や疑問がないかお聞きし、納得頂いて契約を締結している。介護報酬や制度改正時はその都度説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者様やご家族とのコミュニケーションを密にし、意見や要望が出せるように心がけている。玄関前に「希望の声」箱を設置してご家族様や外部からの意見が反映できるようにしている。意見なども苦情として受け止め会議等で検討し運営に反映するように務めている。	利用者と普段からコミュニケーションを図り、家族は面会時に意見や要望を聞く機会としている。家族会があり、5月に「父・母の日会」として開催されている。12月には「クリスマス&忘年会」があり、食事をしながら交流している。家族から運営に関する意見はなく、外出させてほしいとの要望がある。事業所以外の苦情相談窓口があることを利用者や家族に説明している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案、不満が言いやすい環境作り、聴く姿勢に務めるようにしている。意見や提案など毎月のミーティングや年2回のスタッフとの個別面談を通して、職員の希望や提案などが運営に反映できるようにしている。	管理者は、毎月のミーティングや年2回の個別面談で、職員の意見や提案を聞く機会とし、話しやすい職場環境づくりに努めている。職員へのアンケート調査を実施し、職員は自分の短所を書き、他の職員には長所を書いてもらう方法で、職員のモチベーション向上に努めている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、職員が目標に向けて向上心が持てるようにしている。資格取得、習い事、趣味、研修会等に積極的に参加できるように勤務体制を考慮し、やりがいのある職場を目指している。	法人の就業規則で、勤務時間や給与等が明記されている。人事考課制度や資格を取得すると昇給する仕組みがある。職員が向上心を持って働けるよう研修や年休行使等のシフト調整を行っている。職員のストレスチェックも年1回実施し、職場環境の改善に努めている。1階の廊下奥にソファを置き、カーテンで仕切った休憩室を設ける等環境整備を行っている。定期的に集団健診や人間ドックを実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や習熟度に合わせて研修会や勉強会へ参加してもらい、本人の自信にもつなげている。研修後は勉強会にて報告し、他職員のスキルアップにもつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、県グループホーム協会、那覇市グループホーム協会へ参加し、同業者と交流する機会を持ち情報交換を行っている。また、職員間の相互研修で他グループホームで学ぶ機会も設けサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に利用者の状態確認や生活状態を把握するように努めている。ご本人やご家族からのお話もお聞きし、また、担当の施設や介護支援専門員、担当医からの情報も収集し、ご本人が安心して過ごせる様環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族へこれまでの苦労や思いをゆっくりお聞きして、相談にのれるようにいつでも対応できることを伝えている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族に事前にホームを見学して頂き、会話の中からこちらの意向をお聞きしている。希望があれば以前通っていた大名施設内のデイサービスにも出かけ、交流を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の日々の言動を観察し、得意としていることを役割として担っていただき共同生活をするもの同士支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事は家族へも案内している。誕生日会等開催し、本人と家族が会う機会を作りつながりが保たれるよう配慮している。家族面会時には近況を伝え、家族からも本人の話をお聞きしている。家族とともに本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	母体運営の施設から転居した方もいて、法人主催の祭りや行事参加時には知り合いやなじみの職員と再会する機会が多い。今も途切れず交流を継続できるよう支援している。又、今年度は地元で大きな選挙で賑わい「投票場に行きたい」と希望する方が2名いらした。家族の協力のもと知事選の期日前投票に出かけた。	利用者は敷地内にあるデイサービスの友人と一緒に昼食を摂ったり、特別養護老人ホームで行われる地域の敬老会に参加する等馴染みの人との交流を行っている。年1回ふるさと訪問を行い、昨年は地元出身者のため、首里城や自宅近くをドライブした。今年は利用者の出身地である北部に、本人と職員2人でドライブをし、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や日頃の状況等を把握し、利用者同士の関係が円滑になる様、席替えや、時には、1階と2階に分けてトラブルを回避する事もある。職員は利用者の状況をみながら孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的な事で退所になった方や、他施設入所になった方との面会や電話連絡など、本人やご家族との交流も継続して相談や支援に努めている。退所後、2~3年後もホームへ足を運んで下さるご家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに担当職員を決める事により利用者の思いや意向を細やかに把握するようにしている。ご家族も面会が多く、その都度具体的に意見もお聞きしている。難聴の方とのコミュニケーションは筆談やゼスチャーを交えて本人の意向を汲み取れるように努めている。	アセスメントや日頃の会話から、利用者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、本人の様子や家族からの情報で判断している。耳の不自由な方には、白板を準備して筆談で対応し、よく使う会話の言葉をパネル式にして使用している。障害者施設にいる息子たちへの面会に差し入れをしたいという本人の思いを尊重し、利用者の天ぷらづくりを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や生活環境を知ることが、その方を理解することで重要だと職員間で認識を持ち、関わりのなかで知り得た情報は記録で蓄積し、これまでの暮らしと変わらず地域で暮らしていくための総合的ケアに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の1日のリズムを観察し本人の視点にたち、心理面と行動の理解に努めている。心身の微妙な変化をすぐ感じ取れるように、様々な情報(症状にあてはめること等)にとらわれず、日ごろの関わりのなかでの発見からその方を知ること努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を計画に反映し、職員は担当制にして個別の状況を把握する様に努めている。現状に即したケアを行うのに日頃から本人、家族の思いを聞き、現状に即したケアが行えているのかミーティングで話し合い、計画の見直しを行っている。	サービス担当者会議は本人や家族が参加し、意向の確認を行い、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヵ月に1回実施している。ケアチェック表を作成し、介護計画の見直しは半年ごとに行い、状態変更時には随時見直しを行っている。障害者施設にいる息子2人に会いたいとの利用者の意向を尊重し、毎月の面会を介護計画に位置付け、施設職員と協力してサブプライズ訪問を実施する個別支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子やサービスの記録は、PCやタブレットでリアルタイムに情報発信し職員間で共有できるようにしている。「生活の様子」として個別に本人の発した言葉や行動の詳細を記している。言葉掛けの成功事例や失敗した経緯等、職員との会話内容を記し、その後のよりよいケアの実践に繋がられるようにしている。心身の変化や気になる言動は「申し送り表」に記録し、職員は就業前確認(義務付け)のうえケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が安心して暮らし続けていくために、今、本人が望むサービスの実現に柔軟な対応ができるよう努めている。月に1度、他施設に入所している家族の面会で送迎をしていたが、「もっと逢いたい」との思いを聴き、相手施設にも思いを伝え、施設職員同行で家族のサブプライズ訪問が実現した事例がある。双方の良好な関係を築き支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「ふれあい交流会」や地域の行事への参加で、唄や踊り、食事を楽しむ機会を毎月設けている。観覧のみならず、本人も唄・踊りに参加している。法人で毎月行われている理髪サービス「啓髪の会」を利用しおしゃれに関心が向くよう支援している。行事の度、ボランティアの積極参加があり、地域のある小学生は休日に利用者と1日過ごし、事業所主催の「ぬくぬくバザー」の開催日にもボランティアとして参加した。利用者となじみの関係を築き、暮らしを支える一員としての役割を担っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望する医療機関をかかりつけ医として利用している。毎月の定期受診は家族へ対応を依頼しているが難しい場合は職員が対応している。受診結果は家族に即日伝え、職員には申し送り(タブレット端末で発信しリアルタイムに情報共有)している。週に1度訪問看護が入り適切な医療を受けられるよう支援している。歯科医は対象利用者の移動の負担がない訪問歯科を利用している。	利用者は馴染みのかかりつけ医や希望する協力医に継続して受診している。受診時は基本的に家族対応としているが、職員が支援することもある。受診の際は、バイタル表や情報提供書等を持参し、受診結果は同行した家族や職員から報告を受け、職員間は申し送り等で共有している。週1回全員が利用している訪問看護とは24時間オンコール体制により、夜間や緊急時の医療連携を構築している。年1回の特定健診、必要に応じての採血検査等を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度訪問看護を受けている。職員は日常の関わりの中かで変化に気づいたときや本人からの訴えがあった時はすぐに看護師に伝え情報を共有している。圧迫療法のテープの巻き方等相談しアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際にはスムーズに治療が行えるよう施設での情報を病院へ提供している。管理者・職員も面会へ訪れ病院関係者と、情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明の際に、重度化した場合の事業所ですること、できないことについて詳細に説明している。医療ケアが必要となった場合、隣接の法人特養や医療機関へ繋げる支援を行う旨の同意書を交わしている。説明のなかで、疑問点がないかも繰り返し話し合い必要な手続きもサポートしている。	重度化や終末期に向けた対応方針については、契約時に利用者や家族等に説明し、同意を得ている。重度化が進み、事業所での生活の継続が困難になった場合は、利用者や家族等の意思を尊重し、適切な医療機関や施設への入院・転居等を家族とともに検討した上、意向に添えるよう支援体制を整えている。現在、課題であった「重度化対応指針」の見直しを進めているが、より明確な指針の早めの整備を期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生した時には即日職員ミーティングを行い、対応策等意見交換を行っている。事故に備えた勉強会では、事故発生時の対応をシミュレーションし、職員間の相互理解を深める機会としている。利用者は毎朝定時にバイタルサインを記録している。測定中の会話や表情で小さな変化を見逃さないよう日ごろから観察をしている。万一の急変時に備え、職員・利用者家族の緊急連絡先一覧や、訪問看護ナースオンコール体制をとっている。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定の方災訓練を実施している。法人と地域防災協力委員の協力を得て合同訓練も行った。消火器の使用方法・避難経路の確認等実践的に取り組んでいる。	昼夜想定の方災訓練を年に2回以上実施している。法人との合同避難訓練も実施し、「地域防災協力委員会」に登録している委員の参加を得ている。消防用設備等の自主点検を毎月実施し、記録も整備している。備蓄は3日分程度の水や食料、カセットコンロ、懐中電灯等を法人が整備しており、台風前などには連絡・確認を行い、備えている。避難訓練に関する実施報告書等の書類が分散して綴られ、記録等の一部に確認できないものがあつた。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排せつ介助時には、職員は利用者の視界から速やかに消え1人でゆっくり排せつしていただくよう見守りをしている。トイレのなかに「声掛け置き換え表」を職員の目線の先に張り、利用者の誇りとプライドを傷つけない声掛けの意識付けをしている。構造上、トイレは個室が3個並んでいるなるべく利用者同士がかちあわないようプライバシーに配慮している。	職員は、利用者の発する言葉や意思表示を受容することを大切にし、「家族に会いたい」、「電話をしたい」等の利用者の思いの支援に努めている。身だしなみややりたいことなど日々の生活の場面で利用者の意向や選択を尊重し、不適切なケアがないようミーティングや勉強会で話し合っている。重要事項説明書に「利用者の権利」が明記され、契約時に説明している。顔写真等の掲載については「個人情報の使用に係る同意書」で利用者や家族等の同意を得ている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のそれぞれの生活スタイルに合わせている。その日の体調を確認し日々の家事(洗濯物たたみや毎食後のおしぼりたたみ等)を日課として取り組んでいただいたり、カラオケ好きな方には、好きな歌を声を出して歌う時間を設けている。テーブルや壁磨きに余念がない方には興味をひきそうな美容系のチラシをそっとお渡ししている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のそれぞれの生活スタイルに合わせている。その日の体調を確認し日々の家事(洗濯物たたみや毎食後のおしぼりたたみ等)を日課として取り組んでいただいたり、歌好きな方には、好きな歌を声を出して歌う時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝着替えの際、着る服を本人に決定してもらっている。外出時には服、バックやスカーフ等の小物を選んでいただきヘアセットやお化粧もしている。身だしなみに気づかい、その方らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は、テレビを消しボリュームを抑えた音楽をかけ静かな環境づくりをしている。お茶の準備やおしぼり配布を利用者とともにやっている。食の細かい方には、せともの椀に移し替えたり、好物の物を増やしたり盛り付けを工夫している。全員の好物を把握していて、月間献立表から本人の好物が出る日をチェックし当日は本人に「本日のメニュー」を書いてもらい掲示している。	食事は3食とも法人厨房からの配食で、利用者は配膳・下膳やおやつ作り等に参加している。利用者に合わせてテーブルの高さを調整するとともに足下に踏み台を置くなど、食べやすさや視覚的な味わいに配慮している。職員も一緒に同じ食事を摂っている。簡易式キッチンで、差し入れ用の天ぶらを揚げる利用者もいる。法人厨房の調理師が事業所で調理をする「出張屋食会」やビーチでのバーベキュー大会、そば屋やファーストフード店での外食等の機会を設けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事や水分摂取量を把握している。食の細かい方には時間間隔をあけ食事を提供している。水分量が足りない方には手作りゼリーやムース等を提供している。「十時茶(10時のお茶休憩時間)」には、喫茶店形式でメニューから飲みたい飲み物を好きに選んでもらい、飲み物に合わせた器で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは本人の力量に合わせた声掛け、見守りを行い、うがい、歯磨き、義歯のつけおき等も全て次亜鉛酸水を使用し清潔を保っている。1人ひとりの力に応じた歯磨き法を訪問歯科衛生士のアドバイスを受け支援している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレでの排せつを支援している。職員は全員の排せつパターンや排せつのリズムを把握している。意思表示の困難な方の排せつサインをみてトイレに案内している。排泄チェック表を用いて時間間隔があいている方にはさりげない声掛けを行い失敗がないよう支援している。リハビリパンツ・パットの注文は担当制で、注文状況(金額)を周知し、本人の排せつ自立に向けた話し合いをもちたり、家族負担の軽減に繋がるよう支援を行っている。	日中は、利用者個々の排泄パターンや排泄リズムをもとに声かけをし、全員トイレでの排泄を支援している。夜間は状況に応じて、リハビリパンツやポータブルトイレを利用する方もいる。同性介助については、契約時に説明している。失禁時は本人や周囲の利用者に配慮し、言葉遣いに気をつけて対応している。トイレ内での転倒・転落防止のため、排泄介助の方法や見守りについて検討し直し、安全な排泄が行えるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品や手作りヨーグルトを提供し予防に取り組んでいる。それでも便秘が続く方にはヨーグルトに季節の果物を入れたり、栄養士と相談して粉末ファイバーを利用している。本人が無理なく自然に排せつができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の高齢化が進み入浴が負担にならないように週2回の個浴としている。1回の入浴の質を高め利用者との大切なコミュニケーションの場としている。また、皮膚疾患予防とリラクゼーションを兼ね足浴は毎日実施している。	入浴は週2回を基本とし、入浴日に関係なく、毎日足浴を実施している。入浴前の脱衣や洗身の際は、利用者の希望や習慣を踏まえつつ利用者の入浴のスタイルを尊重して支援し、見守りをしたり、ゆっくり話したりしながら入浴を楽しめるよう工夫している。入浴後、愛用のローションでスキンケアをする利用者もいる。入浴を拒否する場合は、「無料ですよ」などと声かけをしたり、足浴から始めて入浴に繋げる等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状況やその日の体調を確認し、本人の要望を取り入れながら日中に、リラクゼーションチェアで休んでいただくなど休息時間を設けている。夕食後、軽いストレッチやアロマハンドマッサージで照明を薄暗くしたりリラックスできる時間を設け良眠に繋げる工夫をしている、又、「眠たい」との訴えや、眠りのサインが出てからベッドに案内する等支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬をもらってから服用後まで4重の確認・相互点検のプロセスを踏んでいる。与薬時は、本人画像と処方薬画像をつけた個別薬カードで声だし指差し確認を行い、本人が安心して服薬できる支援を行うと同時に薬に関する事故防止に努めている。新しい薬が処方された場合は即日申し送りで職員全員に周知し、職員は各自薬ハンドブック・辞典で用法副作用を確認している。	職員は、顔写真付きの「個別薬カード」で利用者一人ひとりの服薬内容や効能等の情報を共有し、受診後の薬の変更や医師のアドバイス等については、申し送り確認している。薬は受け取りの際にチェックをし、管理者の一括管理のもと、薬のセットや与薬時・服薬後の確認等、数回の確認を職員が連携して行っている。今年、配薬のヒヤリハットの他に、貼り薬の確認不足や飲み忘れなどによる誤薬があり、再発防止に努めている。	安心・安全な服薬支援のために「服薬支援マニュアル」を作成するとともに、その周知徹底が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、楽しみごとや本人の活動意欲に繋がる支援を心がけている。日ごろの家事(洗濯物たたみ、チリ紙たたみ、毎食後のおしぼりたたみ、居室のチリ取り等)日課にしている方もいる。新聞を毎日読まれる方と気になるニュースについて語り合い、記事を壁にはったりしている。毎朝、全国自治体推奨の「ご当地体操」を実施している。各都道府県を取り揃えているが沖縄の体操が一番人気である。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事に合わせ、遠方の桜を見に行ったり、浜下りに出かける等している。家族の協力のもと、毎月外出する方もいる。「今日はどこに行くの?」とお出かけが好きな方の希望をくみ、頻回ではないが個別又は2、3人ずつ午前と午後に分かれてドライブに出かける等、戸外が楽しみになるよう支援している。	日常的な外出として、敷地内の散歩や屋外の洗濯物の取り込み、首里城へのドライブ等を行っている。法人の福祉車両を利用して、初詣や浜下り、花見、新設道路のドライブ、イルミネーション見学等も実施している。個別支援として、障害者施設にいる息子との面会を計画したサプライズ訪問や故郷訪問を実施している。外出が困難な場合は、庭でのお茶会、敷地内の木の実取り等で外気浴を実施している。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月定期的にご家族に会いに出かける方から、「お土産にお菓子買って持っていきたい、ジュースも買いたい」との声があり、少額ではあるがお金をお渡しし自身で管理していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人に「名前」を書いていただき、ご家族あてに年賀状を出す支援を行っている。携帯電話を持って、家族とやりとりをされている方が2名いる。「娘と話したい」という方には、事前に娘さんに連絡し、事業所に電話をかけてもらっている。そのときどきの希望に応えられるよう支援を行っている。	
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビングには生け花や観葉植物を飾り、季節感が感じられるようにしている。朝一番に窓を全て開け空気の入替えをしている。リビングには次亜鉛酸水の空気清浄機で快適に過ごせるよう整えている。リビング中央の時計のそばに大きな文字カレンダーと日めくりカレンダー、今日の献立を並べ、毎朝職員と一っしょに確認と日めくりをしている。毎月、季節の飾りのモチーフを職員と協働作成し天井や壁に飾っている。	食堂兼居間の共有スペースには、開設時から使用している家庭的な家具や調度品を配置し、1階、2階ともに利用者の生け花や作品等を飾っている。1階の玄関フロアや廊下には大きなテーブルやソファを配置し、地域住民や子ども達との交流の場、及び会議等に活用している。1、2階に居室が配置され、テレビも両階に設置されている。利用者は日中2階で過ごすことが多いが、一人でゆったり過ごせる1階のソファで寛ぐ利用者もいる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルは気の合う同士でお茶を飲んだり、軽作業ができるよう席の配置を工夫している。リクライニングソファで休息できる場も設けている。リビング中央はテレビやDVDを楽しめるようソファを置き、複数人で楽しみを共有できるよう工夫している。利用者は日中お気に入りの場所でおもいおもいに過ごしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の持ち込みに制限はなく在宅から使用しているものや本人のなじみのもの、お気に入りのものをご家族に協力いただき持ち込んでもらっている。1人掛ソファやタンスを持ち込み、毛布クッションスキンケア用品等を好みの配置で飾っている方もいる。ほとんどの方が好きな写真や花、自作品等をタンスの上や壁に飾っている。本人からベッド(頭)の位置を変えたいとの要望があり、即日模様替えをしたことがある。	トイレや洗面台が設置されている居室と洗面台のみのある居室等があり、各居室とも大きな窓から景色を眺めることができる造りになっている。利用者は、人形やぬいぐるみ、花木、化粧品、簡易ベッド等を持ち込み、メイドとして働いていた頃の家族との再会写真や子どもの写真、映画のポスター等を飾っている。地図の図鑑を置いている利用者もあり、利用者の好みや趣味が反映された部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・共用空間は歩行や車イスを自走する方の妨げにならないように整理整頓している。居室からトイレへいくルートにサインをはり、ドアのへりはゴムで囲うなどして安全な環境と自立を促す工夫をしている。居室のベッドと壁の境目の距離を狭めて伝い歩きが行えるよう工夫している方もいる。部屋を迷わないよう居室ドアに顔写真を飾っている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームぬくぬくの家・幸

作成日 : 平成 31 年 2 月 1 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		現在、地域代表の委員がない。	地域の方に依頼して平成31年2月からの運営推進会議に参加して頂く。	地域の方に依頼し了承を得ました。平成31年2月開催の運営推進会議で委嘱状を交付します。	1ヶ月
2		飲み忘れ等の誤薬があった。服薬マニュアルを作成していない。	服薬マニュアルを作成し、職員間で周知徹底を図り、安心・安全な服薬支援ができる。	服薬マニュアルを作成しました。今月の勉強会で「マニュアル勉強会」を行い、マニュアルに沿った服薬支援を徹底します。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。